

◆ \ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現に向けて /

キラッと★スマイル 八戸ナビ

26



いしばししんや
石橋伸也さん(八戸酒造株式会社 蔵人、重地えんぶり組 太夫)

蔵人として、酒造りだけでなく自社田の管理や農業体験イベントにも携わる石橋さんは、えんぶりや虎舞にも参加するなど、多方面で活躍しているようです。そんな石橋さんから、仕事と地域活動の両立についてお話を伺いました。

一念発起して酒造りの世界へ

以前は介護福祉士の仕事をしていましたが、もともとお酒が好きでイベントにも足を運んでいました。25歳の時に蔵人の募集があることを知り、職人の世界への憧れもあったので「挑戦してみたい」と転職を決意しました。苦労もありますが、それ以上にやりがいや魅力が大きく、転職して良かったと思っています。

酒造りのほか、自社田での田植えや稲刈りの体験イベントも担当しており、そこで交流するお客様のご意見も酒造りの参考になります。酒造りは奥が深く学ぶことは尽きませんが、いつか杜氏としてお客様に喜ばれるお酒を造りたいと思います。



田植え体験イベントでは実演を交えながら手順を説明しています。

仕事の縁で郷土芸能との両立へ

仕事で知り合った人に声をかけてもらったことがきっかけで、地域のえんぶり組や虎舞組に入り10年ほどになります。娘にも郷土芸能に触れてもらいたいと考え、家族で一緒に参加しています。えんぶりは豊作祈願のお祭りとして酒造りとも関係が深い郷土芸能です。蔵人としてお酒とお米作りに携わり、えんぶりに参加することに大きな意味があると感じます。共に伝統を守りながら、日本酒や郷土芸能の文化、八戸の魅力を皆さんに発信できるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。



えんぶり組では太夫を担当

好きなことで縁が広がっていく

酒造りの知識もなくやる気だけで飛び込んでから19年が経ちました。当時指導してくださった先輩方と家族のおかげで、現在まで蔵人を続けてこられました。今では会社のさまざまなイベントや自身の活動を通して、多くの人と知り合い支えられています。こうしてお酒を通じて人とつながっていく喜びが、仕事と地域活動を両立しながら続けてこられた原動力だと感じています。日本酒に少しでも興味がある人は蔵や弊社イベントにぜひ遊びにお越しください。



酒造りのイベントや農業体験についての情報はこちらから



お米の出来に合わせて仕込み方法も調整します。

今回は4月号に掲載!

広報
はちのへ

2024

10

No.1394

市ホームページ



市公式SNS



2024年10月号
令和6年9月20日発行

[印刷部数] 97,800部
[印刷経費] 62,568円/部



広報はちのへを、スマホで

Catalog Pocket カタポケ

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

This Public relations magazine can be read in 10 languages.

無料
Free App



[発行] 八戸市

031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号

TEL:0178-43-2111 FAX:0178-45-2077

[編集] 八戸市総合政策部広報統計課

TEL:0178-43-9317 FAX:0178-47-1485

UD
FONT
by MORISAWA